



風俗文選

解説

四



5  
1879  
4



市市  
市市  
市市

市市  
市市  
市市



5





とありいし。一人の罪人となりて。海心とうありて。ま  
まらあれは。は。傾。倍。め。か。う。ふ。と。つ。る。ま。れ。あ。れ。は。  
か。ら。こ。い。は。る。

傾。鈍。け。け。と。ほ。り。つ。れ。若。者。妻。切。か。う。こ。と。威。と。さ。う。れ。は。  
系。正。系。ハ。は。一。巻。と。系。よ。つ。ま。う。る。れ。ど。ん。と。号。を。  
お。ら。し。飲。食。系。物。を。ふ。す。ぐ。れ。う。れ。ま。の。物。ハ。質。ま。り。乃。  
り。ん。か。う。と。さ。る。よ。あ。ど。ご。で。も。高。く。日。を。毎。を。せ。り。  
あ。人。あ。ん。こ。い。な。う。ね。成。個。信。と。せ。ら。ん。何。を。や。

傾。ら。必。就。れ。れ。物。酒。は。純。一。お。物。系。を。備。一。物。  
ら。ん。く。い。ら。酒。を。お。ま。ん。酒。は。れ。飲。飲。を。ら。ん。是。夫。乃。  
自。然。こ。も。あ。く。と。さ。う。は。疑。ま。れ。ま。も。つ。れ。あ。る。ん。牙。あ。く。  
その。角。と。い。う。ま。さ。る。類。と。い。ふ。む。

傾。城。の。色。ハ。晋。子。が。ん。布。て。い。い。さ。う。一。を。れ。ど。も。遊。春。  
の。情。ハ。下。ま。よ。う。お。り。さ。う。の。あ。れ。と。ん。本。道。守。ハ。女。の。  
上。に。あ。せ。り。よ。れ。お。母。の。ま。ね。く。お。う。つ。わ。香。ハ。あ。ね。の。  
袋。乃。自。い。し。し。お。も。い。海。や。を。傾。城。の。自。い。船。四。路。  
乃。う。川。に。香。な。ら。ん。遊。遊。は。君。乃。を。く。い。ら。小。田。久。  
を。く。定。ま。う。海。

傾。城。の。妻。何。と。い。う。や。か。い。の。あ。い。と。い。ふ。  
ま。れ。く。君。踏。さ。い。い。れ。れ。も。君。を。試。も。遊。母。し。し。  
よ。れ。つ。う。う。う。を。く。を。れ。色。歌。よ。お。何。れ。て。あ。く。  
ま。で。傾。城。と。お。ら。男。女。よ。上。下。乃。を。く。い。ら。あ。も。く。





義をせむこと能は。度びしり類シキ也し。

山葵シラカ。生シラガ毒。蕪タテ。かきし。山椒シラカの辛シラカの類も。若くは漢

を如く。海魚腸といつる物也。こびり赤あわさるるかき

とす。此シラカ昆布シラカよき返さく回ら。山椒シラカ若くは若くをんせく。鯉シラカの

子つけの清き。飯籾乃おぼけり。味試しては。

色をばりしりす。ぬを令し。あつた。あつたをか。ち。遠

夜のみをさ。み。初宵お種よ。その晴を盡せ。陽夜シラカは

全のせい。女シラカちきり。右シラカのよし。をばり。あつた。し。

そぬ敷をつらりて。あつた。せり。あつた。あつた。あつた。

つと。飯シラカ小野の菜屋の若くは。振シラカ也。あつた。あつた。

煩シラカをばり。陽子よ。あつた。あつた。あつた。あつた。

と。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。





思ひをらむふふ。傾城の義階子あくる、小端なうなるをい。  
 つらふも、まよはれつらふも、まよはれつらふも、まよはれつらふも、  
 まよはれつらふも、まよはれつらふも、まよはれつらふも、まよはれつらふも、  
 舞、れつらふも、まよはれつらふも、まよはれつらふも、まよはれつらふも、  
 の傾、道と、曲と、車井の、く、向、を、ら、つ、と、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、  
 原、く、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、  
 まよはれつらふも、まよはれつらふも、まよはれつらふも、まよはれつらふも、  
 あ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、  
 まよはれつらふも、まよはれつらふも、まよはれつらふも、まよはれつらふも、  
 まよはれつらふも、まよはれつらふも、まよはれつらふも、まよはれつらふも、  
 天下と活め、の、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、  
 神鬼をらむふふ。傾城の義階子あくる、小端なうなるをい。

神鬼をらむふふ。傾城の義階子あくる、小端なうなるをい。  
 たり、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、  
 まよはれつらふも、まよはれつらふも、まよはれつらふも、まよはれつらふも、  
 鏡、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、  
 一也、何、を、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、  
 施、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、  
 王昭、施、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、  
 一、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、  
 禮、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、  
 一、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、ま、よ、は、れ、つ、ら、ふ、も、

正





茶碗銘

風書

○名茶碗あり。茶の好むまじくく好む。言ひたれども。月待宵のやこをさるる。闇夜ノ鼻とく。他ノ。まじく。つらたろのまじく。まじく。

揀校

高麗

大玉

小玉

とちり子

よよ子

小玉の巻

之代目をみん子といふのやこ。こころ。好む。よよ子。味。あ。所。は。く。ま。じ。く。あ。る。

みん子のこころといふ。後。思。茶。碗。

雲華園銘

五老井四編  
一章也

汝村

○美茶の龍鳳を貴し。こころ。へ。端由。縁の何也。和漢飲食の中。此。重。味也。陸羽。の。茶。經。に。み。ん。子。の。不。建。列。洪。列。名。茶。多。一。て。む。校。も。縁。と。ほ。先。く。わ。和。新。自。意。し。つ。る。巴。東。の。實。と。と。わ。く。縁。て。緋。あ。乃。ま。は。植。の。小。梅。乃。尾。小。福。を。ね。移。茶。碗。に。此。に。怪。なる。ま。じ。く。後。に。字。活。ふ。は。挿。う。は。て。上。林。何。某。の。家。を。か。る。は。近。の。土。居。る。駿。州。乃。安。於。こ。の。茶。室。能。也。近。江。の。土。井。の。江。東。の。茶。室。も。こ。の。政。所。松。尾。の。格。也。志。く。ま。は。字。活。回。家。の。ま。じ。く。也。登。山。程。所。茶。碗。一。て。廣。茶。の。端。葉。と。製。と。世。の。何。く。福。見。茶。と。引。も。縁。の。是。也。一。茶。也。と。決。り。の。有。形。也。の。茶。室。を。他。て。結。也。



乃知字乃乃子の物と以て何の事をも知らしてあり  
此物亦神と物と云ふ。是れ形のみならず神と人の  
まゝぬ言をなれ。是より若れ物と云ふを物と云ては  
ぬとあふ人のいふを飯と云ふをいふの笑ひもあは  
し。其語すい。

以飯名鮮 鮮而非飯 一點體皮 十重鳥子  
色於雪白 香非梅酸 藤花漸暗 橘香已近  
貴公元慶 下屬未知 昔下和玉 似之是照

座右銘

芭蕉

○人若短を以事し  
長試とく事し

銘と云

いかにば

うまぬは

いかに

あま  
うら



是非辨

許六

○是を是としずは是。非を非としずは非。是非を辨ずるは、  
非を非としずは是。是を是としずは非。

我が耳目儒釈道乃者をもむ道に儒の教とせらる。佛の  
佛のむよをよとせらる。若くは佛の教とせらる。吾ら  
吾らも佛の教とせらる。是非の辨は、是非の辨の遊に  
著せらる。是非の辨は、是非の辨の遊に著せらる。

是非辨



の母は先づうち七葉の雅よおのひをたれもいざいざい  
影ひのふすまよとにきりあふのふよの腹とさきりこも梅も  
きり川があふいふよお肉は煮たはれはれとさるるあはれいふ  
あきよとさよとくもあふふ今ハ何の心と人ふとれて悲  
老母の恨らうの影うげまふとくよおあわの園へて偏了  
親族お別よひと。さつる臘月もわふ雅よとさつる  
るおま唐よまよわかまよとあはれにまきり。武名王成の葉の  
ぞうありと。武の一字を搦て。流成と名づく。とれはるる  
今日のおいれとささる。いさる向ひにやうとねたにたてて  
人よと志のつれ。あましく又りてくまはてく。子の如く。ま  
やのひいひれひつひとさる付乃。熱の枝よひんりしれく  
れもよふわまきむも也。まよとさわく。かひとのふひとをれ  
おはこなく。さよとすれは胸うさるて。そふい。まはれ  
やして。夕乃。まよよひよめい。

然風よ折くくぬ。ままの枝

夫の誄

去る年

○今<sup>コノトキ</sup>来<sup>キタリ</sup>二月<sup>ニケツ</sup>末<sup>ノヒ</sup>乃<sup>ハ</sup>四<sup>ノヒ</sup>日<sup>ニ</sup>。月<sup>ツキ</sup>を<sup>ツ</sup>ま<sup>マ</sup>唐<sup>ノ</sup>よ<sup>シ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ク</sup>。福<sup>フク</sup>妙<sup>ミョウ</sup>子<sup>シ</sup>ま<sup>マ</sup>ら  
まい<sup>マ</sup>わ<sup>ハ</sup>と。御<sup>ミコト</sup>勅<sup>ノ</sup>の<sup>ニ</sup>正<sup>マサ</sup>秀<sup>ヒデ</sup>り<sup>ハ</sup>許<sup>ヨ</sup>り<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ク</sup>。被<sup>カ</sup>さ<sup>レ</sup>る<sup>ル</sup>よ<sup>ハ</sup>と。園<sup>ニ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ク</sup>  
海<sup>ウミ</sup>と<sup>シ</sup>ま<sup>マ</sup>ね<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ク</sup>。い<sup>ハ</sup>人<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>。武<sup>タケ</sup>よ<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>尾<sup>ビ</sup>張<sup>テ</sup>の<sup>ハ</sup>ま<sup>マ</sup>よ<sup>ハ</sup>ま<sup>マ</sup>  
大<sup>オホ</sup>心<sup>ココロ</sup>よ<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>く。勇<sup>ユウ</sup>徳<sup>トク</sup>の<sup>ハ</sup>名<sup>ナ</sup>も<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ク</sup>。一<sup>ヒト</sup>日<sup>ニ</sup>よ<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ク</sup>。一<sup>ヒト</sup>人<sup>ヲ</sup>と<sup>シ</sup>て  
し<sup>ハ</sup>べ<sup>ク</sup>た<sup>ハ</sup>。君<sup>キミ</sup>又<sup>マタ</sup>乃<sup>ハ</sup>た<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ク</sup>。い<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ク</sup>。傳<sup>ツタ</sup>ふ<sup>ル</sup>お<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ク</sup>。ま<sup>マ</sup>ら<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ク</sup>。



之。朕下松平乃能之。彼。そよとみ。乃。よて。兼。信。等。所。之。望。  
 ま。う。後。を。び。び。え。れ。バ。時。が。門。自。故。曲。々。水。相。逢。々。く。所。分。  
 あり。杖。杖。様。へ。入。落。梅。舎。を。松。く。飛。出。て。う。り。於。入。子。報。  
 とも。發。る。と。祝。る。も。彼。山。よ。遠。う。目。を。て。柳。木。琵琶。湖。水。指。  
 頭。花。洛。山。と。眺。め。を。共。め。し。皆。く。入。と。山。と。も。う。さ。此。世。  
 い。あ。る。事。ハ。世。よ。そ。も。よ。う。後。あり。く。之。一。う。さ。道。波。の。舟。  
 餅。子。も。志。く。家。を。も。通。り。神。と。月。一。夜。所。用。を。う。け。て。  
 茶。庵。よ。や。と。ら。て。さ。び。な。夜。や。お。り。い。は。く。ま。い。山。乃。と。  
 中。て。お。も。を。り。も。活。ふ。後。川。を。忘。ま。さ。く。わ。と。う。さ。此。人。も。  
 斜。ち。ら。ど。文。竹。ま。く。小。雷。鳴。地。の。い。ふ。大。河。之。流。を。た。れ。  
 ち。く。れ。ば。虚。室。欲。参。閑。是。宿。満。山。雷。雨。を。夜。寒。く。更。と。更。  
 一。出。し。被。第。い。ぬ。く。と。と。被。ぬ。身。乃。上。被。ぬ。め。く。ま。さ。と。  
 ま。う。一。一。高。字。丹。を。も。う。さ。び。ね。め。ら。ぬ。今。し。り。一。よ。  
 名。の。と。孫。を。く。家。凡。十。年。所。ま。う。い。ぬ。と。お。り。く。み。り。  
 仰。一。を。根。を。百。年。乃。く。あ。み。を。ま。ん。と。一。と。も。松。  
 名。所。と。う。け。一。句。法。も。向。く。ま。あ。一。の。り。事。成。り。て。  
 信。の。の。い。

か。か。名。さ。き。う。ま。や。と。を。新。ま。る。も。ま。

去来謀

詩六

〇維ニシキ室ニシキ元ニシキ甲ニシキ申ニシキ入ニシキと。秋九月。之。流。梅。舎。に。去。来。率。と。嗚。呼。悲。し。  
 い。れ。け。即。八。向。井。氏。去。勝。老。人。乃。末。孫。子。と。ま。く。の。統。景。乃。方。と。

おひらき。名々手紙高。武法書とくしものり。内より信り。君と  
ら夫を於て。十年と吟。一とる。二十五年。先のう也。合とく。二十  
年。未だ大限也。和名。これと信。人のいひ也。まわ。川乃。ひら。の。先  
師。董。可。利。ま。ま。ん。て。風。雅。乃。名。ま。ち。が。わ。京。師。よ。か。ま。へ。て。後。子。が  
か。ら。ま。坐。も。南。西。の。氣。と。押。へ。東。水。の。風。と。護。も。天。下。蕉。門。の  
高。才。と。稱。し。て。あ。ら。世。の。時。正。風。作。お。ま。れ。こ。を。お。り。ま。て。

湖乃おきさわり。夕月。あとも。若葉。乃。送。と。書。て。右。易  
流。約。の。巻。を。と。り。ち。ほ。張。の。新。内。は。お。ぞ。と。も。統。一。書。ま。へ。細。と。も  
し。れ。ま。を。

おびし。乃。比。も。高。さ。也。け。ぬ。の。那。一  
ほと。い。は。後。年。一。や。を。在。お。十。文。字。と。い。し。も。り。又。い。つ。ま

仲たしや。

若くは。や。あ。ふ。も。い。ら。月。お。書。と。吟。し。て。老。師。の。耳。を。驚。か。す。  
月。書。院。乃。亦。一。古。今。お。考。述。と。ま。ま。い。ら。も。と。ん。ぐ。一。代。考。述。を  
一。あ。句。と。い。ふ。人。も。稀。き。一。け。あ。と。い。ふ。お。数。句。一。及。一。二。三。  
案。の。新。水。乃。切。積。つ。暖。海。の。高。橋。今。は。ゆ。て。送。へ。石。山。の。お。信。書。お  
老。と。訪。ふ。心。も。一。深。く。て。一。と。也。新。波。の。愛。を。書。て。速。く。こ。も。つ。れ。を  
解。義。神。寺。乃。尋。り。し。も。南。家。お。御。淋。を。携。へ。死。は。お。城。を。渡。  
守。り。て。は。生。を。か。ん。を。神。心。と。あ。ん。く。新。乃。浪。化。よ。か。り。ま。て。の。後。融  
波。の。ま。を。送。し。時。乃。亦。七。を。も。ひ。ま。を。く。は。ま。し。も。を。集。む。い。れ。我  
大。教。乃。力。と。も。也。て。又。送。高。着。の。一。人。と。も。み。病。家。よ。伏。て。も。二。三  
自。他。の。書。を。寄。し。し。る。心。も。ち。る。舊。乃。滅。亡。の。月。日。も。あ。わ。ま。む。









三ノ中をむしりお人のまげく種もかぐあぢれぬをわらへんく。  
 人々がたぐり三ノ中もさるまじくをの種が友をさる回へおまを  
 やうおあひこちてをあしめた人のよ味もあつ種いにおあひ  
 おどろくはいのせうとさういへるあまもさるもさるなりわい  
 とせの交をかきひてその人なぬあけりいさう吹おひく  
 しくさるまじくおまもさるあまもさるあまもさるあまもさる  
 うちて世におはるあまもさるあまもさるあまもさるあまもさる  
 風雅のまのりもお種がうまもさるあまもさるあまもさるあまもさる  
 一まのまのりもあまもさるあまもさるあまもさるあまもさる  
 きりお種いひひましてさるあまもさるあまもさるあまもさる  
 を書何よりい人をかきまもさるあまもさるあまもさるあまもさる

家々所儀院乃森よかす種て。まきまおのちりよ種ま。

名は海橋合お指よおまてく。空りお秋のまを恨む。

世いもいひつなうん。家いもいひつなうん。

窓おあうー一ノ種をまもま。

朝の志け多し新をーまもま。

おひいー一ノ種をまもま。

柿のまもあ種け様おまもまのあまも福もまも。人もおまも  
 虎乃とておあう。世おあうー一ノ種をまもま。あまもあまもあまもあまも  
 れがうや。











ふはれを

松島内門の意。

虚堂和尚の待。

五よ半迷

柳子よあふれて、梅の脈脈なる春。

貧盗よふ盗

降子に面せぬいづ。燈火の幽幽なる時。

嵐ハ可捕捕とは作わけて。塵羨を社工部。

蛙々を無用とい誠わめく。笑見ら白藏司。

昔ハ世の宮の中。

牡丹を入入輝りて花を正正速に速やく。

今々春四の廣邊。

天蓼垣にお荒荒速れり。實己と己ふ速む速。

あまの雀が添物契よら契りて。さきに傾城の才仁業。

返世と音音速に速あを速心。ともふ菩薩地地速に速。

まの春の春も良無く良無。

連の舞足足速も降良良速。

涅槃の音音速乃速声速。

困キ困速が速裏速に速眠速を速ち速ら速ま速ち速。

菩提月月の教教速。

本本本速の心心速に速わ速り速。

如見之之速。

南無無速。

平古戰場文

芭蕉

この世の意。一時時速乃速中速して大所速に速。

あり。秀衡、跡ハ口野小小速なり。金野山山速のと取速を速。

この世速に速は速る速。小上山山速ハ南速に速。









通

木ナ

木ナ

木ナ

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '通' and '木ナ'.













あはづらうの種。あまき。酒の。彼も。あまき  
はづら。えん。日。色。を。井。温。能。り。て。い。せ。い。し。あ。ま  
し。あ。ま。の。日。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。

たぐいは後る世もやあつゆら

靈虫傳

去来

○深世にまじしは虫あり。母と出まの玉。稲田姫のあまき  
名。父とゆく。衆もあつぬ。稲の。あまき。あまき。あまき。  
て。か。き。い。は。の。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
中。川。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。  
あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。あ。ま。い。せ。い。









先師の流いにあらず。晋子を他をぬみく。己の一門を立  
せり。於頃日乃凡師をとんいひお右に改め。師の酒  
とる名つきるふ。何乃たりい。あん東を師の笑  
す者也。先師のまりてた。所う上手といふ世師  
説ようと記すもある也。唐の新古乃れちうのも  
づい。他の流を引しるよ。利ありていふの名をぬみお  
すおらまよ害あり。他の他の乃るいく。福い其の  
角支考ハ下手といふ一。先師の口癖いくまいきる。  
色を流よ。まりずい。色を流よ。凡師乃血脈をぬみる右  
と家也也。因にいふ。解と申と志と。後世の息  
解と言ふ。此の心のかきといふ一。といふ一。といふ一。

今一凡師を祀す

と良書

引ふ限乃まのりまや帆け社  
たらまや田乃新師。一等一等  
四乃月乃多乃波乃かとおはけ  
引が跡へ缺は立し。法乃あるぬ  
標平みおかはや菊の新法乃  
看經乃固をぬは乃さうの水  
一初まや鐘樓乃るの當の跡  
一乃まや治る乃人の跡  
是先師の儀は乃自也。先師をまのの身と祭。せらる一

其念のく。今又一人もけ向子腸を穿人あり。
 程又其念乃るの神。後人色養相乃血脈。嗣子
 とするなり神。今け傳を讀ぐ。定く隨由とむ。
 謝し。又其由も死。又其由も死。今人の
 其死をも。其神その慈れや。其由も死。今人の
 其死をも。其神その慈れや。其由も死。今人の

其死をも。其神その慈れや。其由も死。今人の





てあるもよかの神を。時移を代りて、を記し、  
たぬまの式。くふまわく。疑い、記す、  
眼おふ古人の心を、閑と、ゆ、乃一徳。取命の、  
尋、の、を、く。涙も、の、は、

笠塚碑

五十一終

心、平田邑。光、遍、寺の、光、  
二十余の。恩、  
朝、  
推、を、  
の、

の、花の、  
束、  
い、  
松、  
向、  
跡、  
中、  
さ、  
な、  
る、  
了、

五十一終

五十一終

出た乃内事一白一申一。たさあ  
ま買入事一議下らるる事。

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

